

最優秀賞（京都府知事賞）

「ビザなし交流」からみえてきた北方領土問題

京都府立須知高等学校 三年 星山 紗輝

「国後島では、携帯電話が日本の国内通話でつながる。」

それって本当のこと、今も強く印象に残っています。昨年六月に、私たちの学校は、ビザなし交流でやって来た北方四島の高校生たちを迎えました。これは、その事前研修で先生から聞いたことです。先生は、ビザなし交流で訪れた国後島で実際に経験されたそうです。国後島はそれくらい北海道に近い日本の島であり、でもそう簡単には行けない島でもあります。北方領土問題は近くて遠い島をめぐる問題というのが私の第一印象です。

また、その研修会では、ビデオを見たり、国後島を訪問した先生から、島の実際の様子を聞かせてもらいました。ふと、そのときに疑問に感じたのが、「なぜビザなし交流なのか」ということでした。その疑問に対する先生の答えは、「ビザを使ったら、ロシアの領土として認めることになるから」ということでした。北方領土問題は、国と国との領土や主権に関わる難しい問題であることも同時に感じました。ビザなし交流は、実に友好的に行われたけれど、北方領土問題は、自分が考えていた以上に深刻な国際問題であることを実感しました。

今回の学習を通じて、北方四島は歴史的な事実や国際法に照らして日本の領土であることは紛れもない事実です。北方四島は、当然日本に返還されるべき島々です。日本政府は、外交を通じてロシアに返還を強く要求すると同時に、国連などの場でも、もっと正々堂々と主張すべきです。

ただ、「ビザなし交流」で北方四島の高校生達を迎え、実際に交流することで、また違った北方領土問題の一面が見えてきました。やって来た高校生たちは、大変フレンドリーで、私たち日本の高校生とほとんど変わりませんでした。そんな様子を見て、もっと知りたい、もっと仲良くなりたいと思いました。それで、彼らが島に帰ってから手紙を書くことにしました。しかし、宛先が分からず、北方領土問題対策協会にお願いをして届けていただきました。こんなふうに、北方四島の高校生に親しみを感じる反面、ロシアとの領土問題を考えると、とても複雑な気持ちになります。

それは、やって来た高校生や多くのロシア人が北方四島に暮らしているという事実です。この事実が、北方領土問題の解決をさらに難しいものにしていきます。今回のビザなし交流を通して、北方領土問題のさまざまな面を学ぶことができました。これは、教科書やビデオ研修では到底感じ取ることができないものでした。リアルな北方領土問題を学んだと言ってもいいと思います。

こうした経験をふまえて、今、私が北方領土問題の解決に向けて思うことは、日本の道理ある返還要求を主張し続けることです。同時に、外交交渉である以上、時に対応は機敏で柔軟であるべきです。以前に実現しかけた二島を先に返還してもらうことなど柔軟な選択も大胆にすべきだと思います。そして同時に、現に北方四島に暮らしているロシア人の人権や利益や希望も最大限に尊重すべきです。こうした姿勢を貫いてこそ、北方領土問題解決の糸口が見えてくるのではないのでしょうか。

私は、ビザなし交流を通じて、あまり関心のなかった北方領土問題についてさまざまな視点から学ぶことができました。以前の私のように、北方領土問題に深い関心を持っている人は少ないのが現状です。本当のことを実感を持って知ってこそ、胸を張って北方四島は日本の領土であると主張することができません。私が経験したように、日本の多くの青少年が学び、そして関心を高めてくれることを願っています。

最優秀賞（京都市長賞）

Do you know Japan's Northern Territories ?

京都市立伏見中学校 一年 中西ひなた

“Do you know Japans Northern Territories ?” これは私が初めてA L Tの先生に話しかけた言葉です。私は当然“**Yes, I do**”という答えが返ってくると思っていたので、ネットで見つけた英語版のパンフレットを握りしめ、たくさんお話ししようと張り切っていました。しかし、A L Tの先生のお返事は“**No, I don't**” 残念ながら会話はそこで途切れてしまい、それ以上弾むことはありませんでした。

私はこれまで、北方領土問題は世界中みんなが知っている大きな課題だと思っていました。なぜならば、大国ソ連（現在のロシア）が第二次世界大戦後の混乱に乗じて罪もない住民を武力で追い出し、何十年も不法に占領するなどということは、どこの国の人にとっても正義に反する行為であるはずだからです。しかしそれは大きな大きな間違いでした。私は北方領土問題が広く世界に知られていないことに大きなショックを受けました。

でも、私も偉そうなことは言えません。なぜならば、私が北方領土を詳しく学んだのは、つい数ヶ月前のことだったからです。私は今年の夏休みに。根室市で開催された「少年少女北方領土研修」に参加して、島の現状を教えてくださいたり、北方領土問題を歴史的な視点から調べたりしました。納沙布岬では、すぐ目の前に横たわる歯舞群島・貝殻島の説明を聞き、わがもの顔で航行するロシア警備艇に強い憤りを感じたりもしました。だからこそ、北方領土を一日も早く取り返したい、元島民の皆さんに島に帰っていただきたいという強い願いを持つようになったのです。

では、この願いを実現するためには、一体どうすればよいのでしょうか。私は北方領土問題を広く世界に訴えていくことがそのカギになると考えています。なぜならば、それこそが日本国憲法の定める「平和を愛する諸国民の公正と信義」に基づいて解決する方法に他ならないからです。しかし、私が探したところでは、外国語に翻訳されたパンフレットは英語版とロシア語版の二種類しかありませんでした。これではあまりにも不十分ではないでしょうか。私は多くの言語でパンフレットを制作し、世界に発信していくべきだと思います。

今、日本人は世界中に出かけています。それは観光だけではありません。留学に、ビジネスに、あるいは人道支援のために、日本人は世界の多くの人々と強い絆を築いています。一人一人の日本人が各国の言語に翻訳されたパンフレットを持ち、北方領土問題を訴えていけば、きっとこの問題を理解し、共感をもって支えてくれると確信します。

私も今後、世界中の人々と心から信頼しあえる友情を育み、北方領土問題を正しく伝えていこうと決意しています。

“Do you know about Japans Northern Territories ?” という言葉と共に。